



# すみれぐみだより

2019年 8月 第2号

待ちに待った梅雨が明け、いよいよ夏本番。子ども達が種をまいて育てている朝顔は、ぐんぐん伸びてきています。どんな花が咲くのか楽しみに待ちながら、「早く大きくなってね」と声を掛ける姿にほっこりする毎日です。ぎらぎらと照りつける太陽のもと、汗をかきながら走り回ったり、水遊びなどの夏の遊びを思い切りを楽しんでいきたいです。

沢山遊んで、いっぱい食べて、休息を取りながら、暑い夏を元気に過ごしていきたいと思います。



## カタツムリ観察日記



戸外に出ると早速虫探しに夢中になる子ども達。アリやダンゴムシを見つけたり、時にはカナチヨ口ともご対面。カナチヨ口はすぐに逃げられてしまうのでなかなか捕まえられず、カナチヨ口の歌を作り、歌いながら探す子もいました。最近では、カタツムリを見つける事も多く、保育士が「カタツムリは食べた物の色のうんちが出るよ」と話をすると、「本当?」「嘘だよ」と信じられない様子。絵本や図鑑でカタツムリのうんちを調べ、実際に飼ってみる事にしました。6月20日から観察を始め、給食室からにんじんの皮をもらって虫かごに入れ、何色のうんちが出るか待ちました。しかし、うんちは出ても黒いうんちばかりで、「にんじんの皮じゃダメかも」と保育士は少し不安になりました。それでも子ども達が毎日うんちの色を確認していると、ついに6月26日に出ました。

「うんちがオレンジ色だ」「本当のうんち」と大興奮。次は何色がいいかな〜と皆で盛り上がっていました。園庭でカタツムリを見つけると、いつの間にか虫かごに入れていて、うんちの色の変化を楽しみました。

うんちの色も黒に戻ってしまい、じっくりと観察を楽しんだ後は、自然の中に逃がしてあげました。カタツムリの観察は、子ども達にとってとても良い経験になりました。



## 梅ジュースができるまで



6月の月刊誌に「梅ジュースの作り方」が紹介されていて、子ども達から「これ作ってみたい」という話があったので、作ってみる事にしました。作る日を楽しみにしながら、何度も作り方を見て覚えていました。まずは、梅を手にとってじっくり観察し、「梅の匂い」「桃の匂い」と言いながら匂いを嗅いだり、頬に当てて肌触りを確かめていました。梅を洗い、竹串を使っておへそ（へタ）取りにも挑戦。難しいかと思いましたが、とても上手にへタを取る事ができていました。梅の次は氷砂糖を手に取り観察。「砂糖の匂い」の他に「温泉の匂い」と言う子もいました。また「冷たくない」と言う子もいました。氷砂糖と言うのに、氷のように冷たくない事を不思議に感じたようです。氷砂糖を味見してみようと「食べていいよ」と言うと、「え〜」と言ってなかなか口に入れられない子ども達。保育士が先に口に入れて「おいしい」と言うと安心したようで、子ども達も食べ始めました。瓶の中に梅→氷砂糖→梅→氷砂糖と入れて準備完了。瓶の中の様子を見て「星みたい」「ミッキーみたい」と話をしていました。次の日、瓶の中を見てみると、少し氷砂糖が溶けて水分が出ていました。毎日瓶をひっくり返して混ぜ、「梅がつぶれてる」「梅がシワシワ」と言いながら水分が増えていくのを観察し、絵本の写真と見比べたり、印を付けていきました。梅ジュースを作り始めてから11日後、いよいよ完成し、「おいしい」とじっくり味わいながら皆で梅ジュースパーティを楽しみました。

子ども達が発見したこと、やってみたいと感じた事などをこれからも保育に取り入れ、挑戦したり、様々な経験をしていく中で、豊かな心の育ちにつなげていきたいと思います。

